

## 「自然科学系アーカイブズ研究会」のご案内

標記の研究会はかねてより核融合科学研究所核融合アーカイブ室、高エネルギー加速器研究機構・史料室、国立科学博物館の企画で開催してきていました。昨年度はお休みしましたが、今年度は第1回を国立極地研究所（東京・立川）で開催し、第2回を核融合科学研究所の共同研究として下記の要領で開催することになりましたので、その案内をお送りします。

2021年と2022年はコロナ・ウィルスの蔓延のためその規模を縮小しオンライン開催で実施しました。今年度は対面での開催をすることにしますが、講師及び参加者の都合を考慮しオンライン参加も可能なようにいたします。

さて、今回の企画は後に記しますようなものを用意いたしました。まだ空いている時間がありますので、なにか話題をお持ちの方がいらっしゃいましたらお申し出ください。

2024年1月22日

### 記

#### 開催の要領

日時：2024年

2月27日（火曜日）13:45～17:00（懇親会 17:00～19:00）

（バスの便、多治見 13:10 発 NIFS 13:30 着を標準として）

2月28日（水曜日）9:30～14:30（NIFS 発のバスの便 14:54 があります）

場所：核融合科学研究所およびオンライン（会場の詳細、接続情報は追って連絡）

主催：核融合科学研究所（NIFS）・一般共同研究（研究会）代表：高岩義信

「核融合アーカイブズおよび類似の科学技術研究資料保存施設の維持と利用・活用の推進について」

核融合科学研究所・核融合アーカイブ室

協力：高エネルギー加速器研究機構（KEK）・史料室

国立極地研究所（NIPR）・アーカイブ室

## 参加申し込みについて

1. 集会参加希望者は以下のフォームのページにアクセスして必要事項を記入し送信してください。(メールに記載してあります)

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSeKittPluyn9b809-uNvM1KPMf4HunIFkNVMmVnm3aDrs0llw/viewform>

うまくできないときは下記にメールでお知らせください。

[kato.terumi@nifs.ac.jp](mailto:kato.terumi@nifs.ac.jp), [murakami.izumi@nifs.ac.jp](mailto:murakami.izumi@nifs.ac.jp), [yoshinobu.takaiwa@gmail.com](mailto:yoshinobu.takaiwa@gmail.com)

- ※ **旅費の支給を希望される方は1月25日(木)までに**下記の(必須)および(\*)の情報を添えてお申し込み下さい。十分な予算がなくまた手続きの期限が迫っていますので、先着順で予算額に達したところで打ち切らせていただきます。旅費の不要な方は後でも構いませんが、早めの申し込みをお願いします。

2. 参加申し込みに入力していただく情報は下記のようなものです。(\*)の項は必須です。

- (1) (\*) 連絡先 (メールアドレス)
- (2) (\*) 氏名
- (3) (\*) 所属・職位 (身分)
- (4) (\*) 公開する参加者名簿に記載の可否。
- (5) (任意) 講演 (発表) を希望する場合はそのタイトルと簡単な要旨
- (6) (\*) 参加日程と参加の形態 (核融合研かオンラインか)
- (7) (\*) 懇親会への参加の有無 (会場は NIFS 内。会費は ¥3,000 程度)
- (8) (\*) 旅費支給希望の有無 (1. の※に注意)
- (9) (\*) 出張期間および NIFS の宿舎 (ヘリコンクラブ) 利用かホテルに宿泊するかの情報。  
ホテル利用の場合一律の ¥8,000 の支給で、各自で予約してください。  
なお、現在核融合研の食堂での朝食・夕食の用意ができないので、その点をご承知ください。昼食は弁当の販売があります。そのため、従来のヘリコンクラブ宿泊優先の要請はしていません。
- (10) (\*) 初めて NIFS から旅費の支払いを受ける方、登録情報を変更される方はメールに添付した書類「銀行振込依頼書」をご提出いただく必要がありますので、担当の方からの指示に従って提出してください。
- (11) (任意) その他の質問・要望があれば。

3. 核融合研共同研究参加者の義務である研究倫理の遵守が要請されることをご理解ください。

## 研究会の概要（プログラム案）

27日（火曜日）

13:20-13:40 オンライン参加者のための接続テスト等

13:45 開始

（未定）挨拶

- \* 村上泉（核融合研・核融合アーカイブ室）

「研究会の進め方について」

[企画]

- \* 高岩義信（KEK・史料室）

「研究会のテーマと趣旨説明」

- \* 橋本陽（京都大学・大学文書館）

「アーカイブズ記述標準の思想とその実践方法」

- \* 奥野雅子（大阪中之島美術館・アーカイブズ情報室）

「(仮題) ArchivesSpace の運用と課題—外部委託の実例」

- \* 中村覚（東京大学・史料編纂所）

「持続性と利活用性を考慮したデジタルアーカイブ構築手法の提案」

- \* 青木健一（金沢大学および京都大学湯川記念館・史料室）

「(仮題) 湯川記念館史料室の資料情報公開の実例」

[その他] 以下の講演の日程（1日目に追加するか2日目か）と時間は未定です。

- \* 菊谷英司（KEK・史料室）

「(仮題) KEK 史料室の歴史資料等保有施設認可申請にむけて」

追加の講演を募集します。

プログラムは確定したら再度送信します。

27日（1日目）の終了予定

17:00 閉会

17:00～19:00 懇親会

19:20 NIFS 発 多治見行き 最終バス（多治見着 19:40）

28日（水曜日）の予定

9:30 ～（昼食）～14:30 講演および総合討論

### 「今回の研究会のテーマについて」

この研究会に関心をもたれる方々には、アーカイブズ施設、史資料館等で、その資料データベースの管理維持に苦勞されている方が少なくないと思われる。とくにその活動に十分な資源を割り当てることが難しいようなところで、どのような取り組みがなされ、またどのように今後取り組むべきかについての示唆が得られるような研究会にしたい。

### 「背景となる問題意識と状況など」

1. アーカイブ資料その他の歴史的資料の収集・保存・管理には収蔵する資料のデータベースが不可欠である。それらの資料が活用されるためにはすべての資料ではなくても、一般向けにそのリストを公開することが求められる。それによって資料の存在がアピールされ、そこで行われているアーカイブズ活動が周知され、評価されるることによって、アーカイブズのための施設の維持に資すると考えられる。
2. しかし、研究のための機関や施設での現状は、関連する資料を管理する史資料室は存在するとしても、十分な活動のための資源の確保が難しい。例えば、保管場所の確保、資料管理の専門知識を備えた、たとえばアーキビストのような人材を配置することが容易ではない。
3. 今回、とくに取り上げたいのは、1. の資料データベースの維持・管理と公開にかかわる資源と管理体制の問題である。データベース・システムの維持のための資源の管理にはハードウェア・ソフトウェア、セキュリティの管理も含まれるインフラの整備コストが馬鹿にならない。上記のような研究機関（部局）のアーカイブズ担当の施設等ではそれに適した人的資源を定常的に配置されることは期待できない。
4. 他方、アーカイブズ資料記述のデータベースに関しては、記述の標準があることが知られており、それに準拠するような各種のオープン・ソフトウェアの開発が進められている。
  - (1) 後者に関しては、オープンソフトウェアなのでその導入には原則としてコスト・フリーであるが、実際はかなりの専門的知識に習熟したものでないと、その導入・運用は難しく、そのための人材確保、外部への業務委託、あるいはクラウド・サービスの利用という形でのコストが発生しうる。多くの場合、それぞれの資料整理担当者グループ内または周辺のボランティアでいずれを採用するか判断して導入がなされている。
  - (2) 前者に関しては、近年データベース記述の標準の見直しが国際機関の ICAで進められているが、それに準拠するソフトウェアの開発の将来の見通しは明瞭ではない。むしろ、それを実現するソフトウェア・システムは高度のIT技術に依存したものとなることが想像される。
5. そのような状況は、アーカイブズ資料データベースに限らず、むしろ近年は博物館や美術館など、様々な機関・施設が情報公開の一環としてデジタル化された資料の公開を進めており、そちらの方がひろく課題の認識が進んでいるように思われる。その場合、記述の標準に関してもそれぞれの場合に応じていわゆるメタデータ・スタンダードが採用されたり、あるいは様々なメタデータ・スタンダードに応じるような汎用的なソフトウェアが採用されたりしていると思われる。